

# 新規事業評価調書

## 【道路事業】

主要地方道 関宮小代線

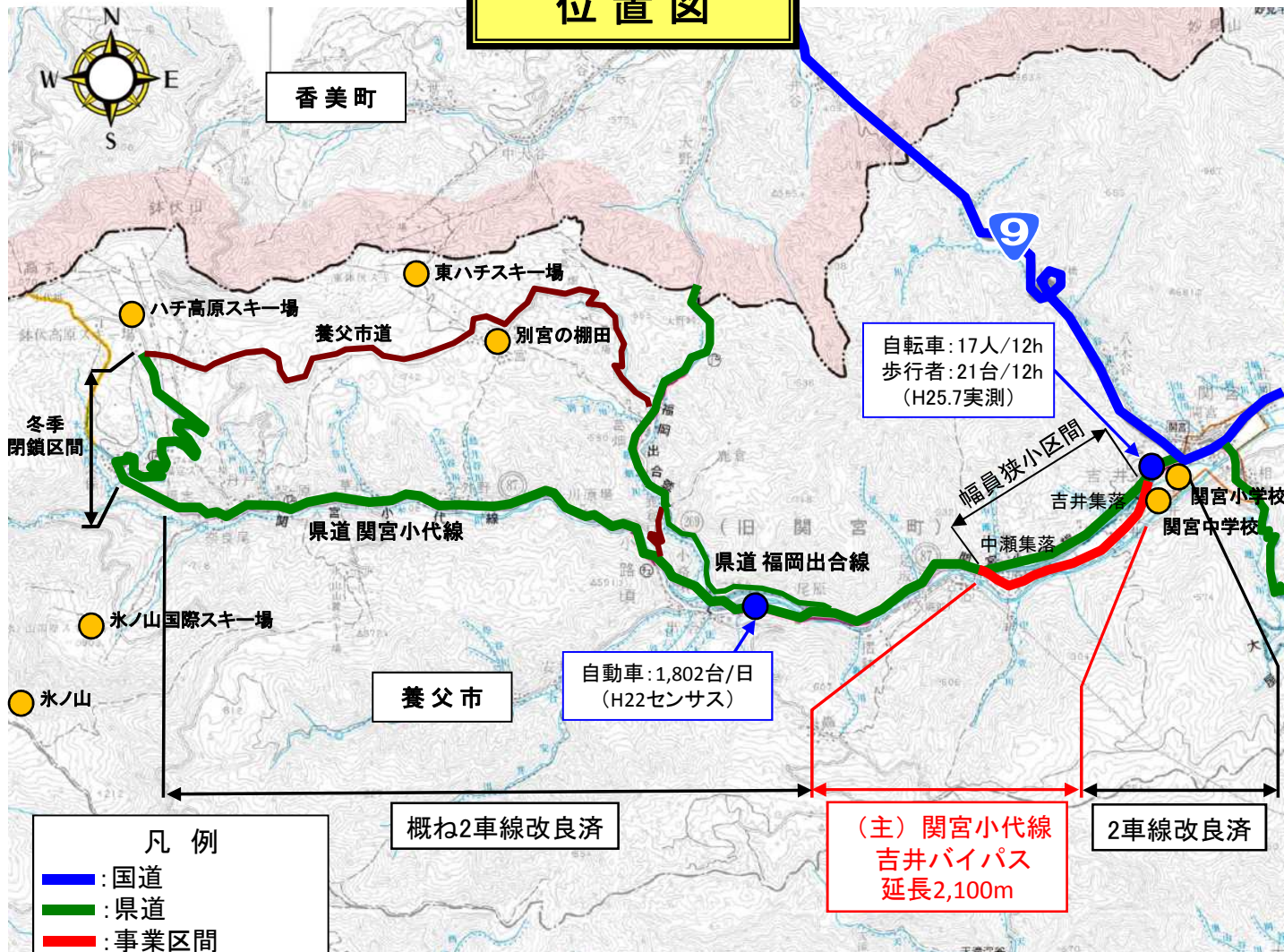
県土整備部

土木局 道路街路課

## 投資事業評価調書（新規）

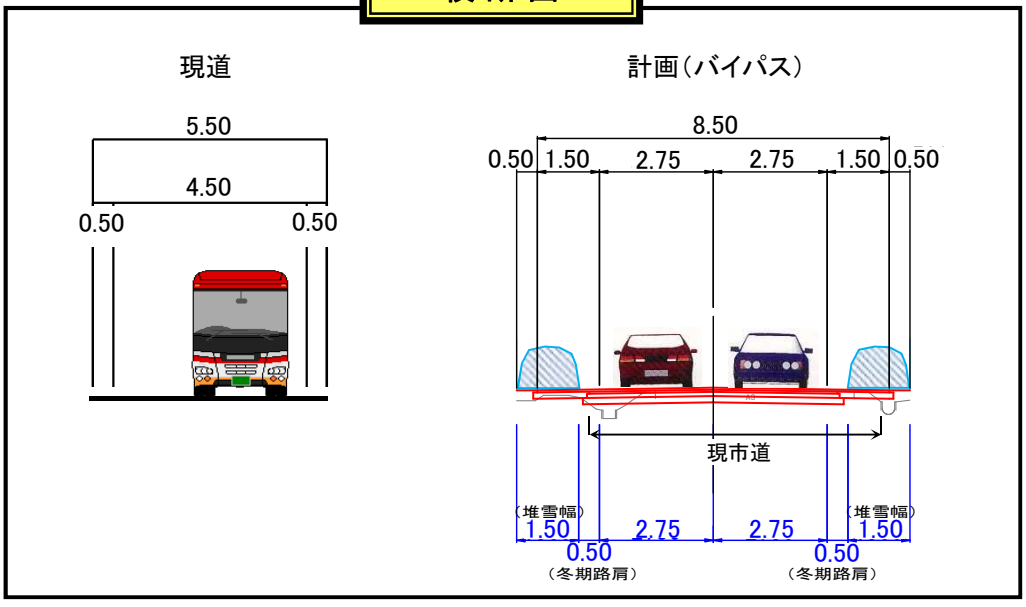
部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 杉浦 正彦 (県道班長 吉村 達郎)	内線	4362 (4376)	
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度
道路事業	道路改築事業 主要地方道 <small>せきみやおじろ</small> 関宮小代線 吉井 <small>よしい</small> バイパス	<small>やぶしよしい</small> 養父市吉井～ <small>なかぜ</small> 中瀬	6.0 億円	2.5 億円	平成 28 年度	平成 32 年度
事業目的			事業内容			
<p>本路線は、国道 9 号から、養父市最大の観光拠点であるハチ高原・氷ノ山へのアクセス道路であり、関宮地域の再活・観光・産業を支える幹線道路である。</p> <p>○円滑な交通の確保 集落内の幅員狭小な現道をバイパス化することより、円滑な交通を確保する。</p> <p>○安全な自転車・歩行者通行の確保 通過交通の転換により、現道の自転車・歩行者（中学生の通学）の安全な通行を確保する。</p> <p>○観光拠点へのアクセス強化 四季を通じて大型バスが往来するハチ高原・氷ノ山へのアクセスを強化し、地域の活性化を図る。</p>			<p>【延長】 2,100m</p> <p>【構造規格】 第 3 種第 4 級</p> <p>【計画幅員】 2 車線 歩道なし 車道 5.5m (全幅 8.5m)</p> <p>【計画交通量】 2,100 台/日 (H42 予測)</p> <p>【現況交通量】 自動車：1,802 台/日 (H22 センサ) 自転車：17 台/12h (H25 実測) 歩行者：21 人/12h (H25 実測)</p> <p>【負担割合】 国：55% 県：45%</p>			
評価視点		評価結果の説明				
(1) 必要性		<p>①集落内を通過する現道は、幅員が狭小(最小車道幅員4.5m 1車線)で、大型車の離合が困難であり、交通事故(車両事故5件)も発生している。このため、本バイパスの整備により、安全で円滑な交通を確保する必要がある。</p> <p>②現道は、生活道路で関宮中学校の通学経路にもなっているが、歩道整備が十分ではない。このため、バイパス整備により通過交通の転換を図り、通学生徒をはじめとする歩行者等の安全性を確保する必要がある。</p> <p>③養父市最大の観光拠点であるハチ高原・氷ノ山には、スキーや自然学校等で四季を通じて大型バスが往来している。しかし、唯一のアクセス道路である現道の幅員が狭小であり、大型車の離合が困難であることから、アクセス性を強化する必要がある。また、養父市中山間農業改革特区で知名度が上がった別宮の棚田へのアクセス道路でもあり、今後の農業振興にも寄与する。</p>				
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)		<p>①費用便益比 B/C=2.1</p> <p>②現況の養父市道をバイパスとして活用するため、経済性に優れたルートである。</p> <p>③養父市および地元住民による促進協議会から早期整備の要望がなされて、事業推進の協力体制が確立しており、事業執行環境が整っている。</p> <p>④完成後の現道の管理引継について、養父市と協議が整っている。</p>				
(3) 環境適合性		①通過交通をバイパスへ転換させることで、大型バス等による交通騒音や排気ガスなどの沿道影響が軽減される。				
(4) 優先性		①地域の防災道路強靱化プランに位置づけられており、災害に強い強靱な県土づくりを進める上でも早期整備が必要である。				

# 位置図



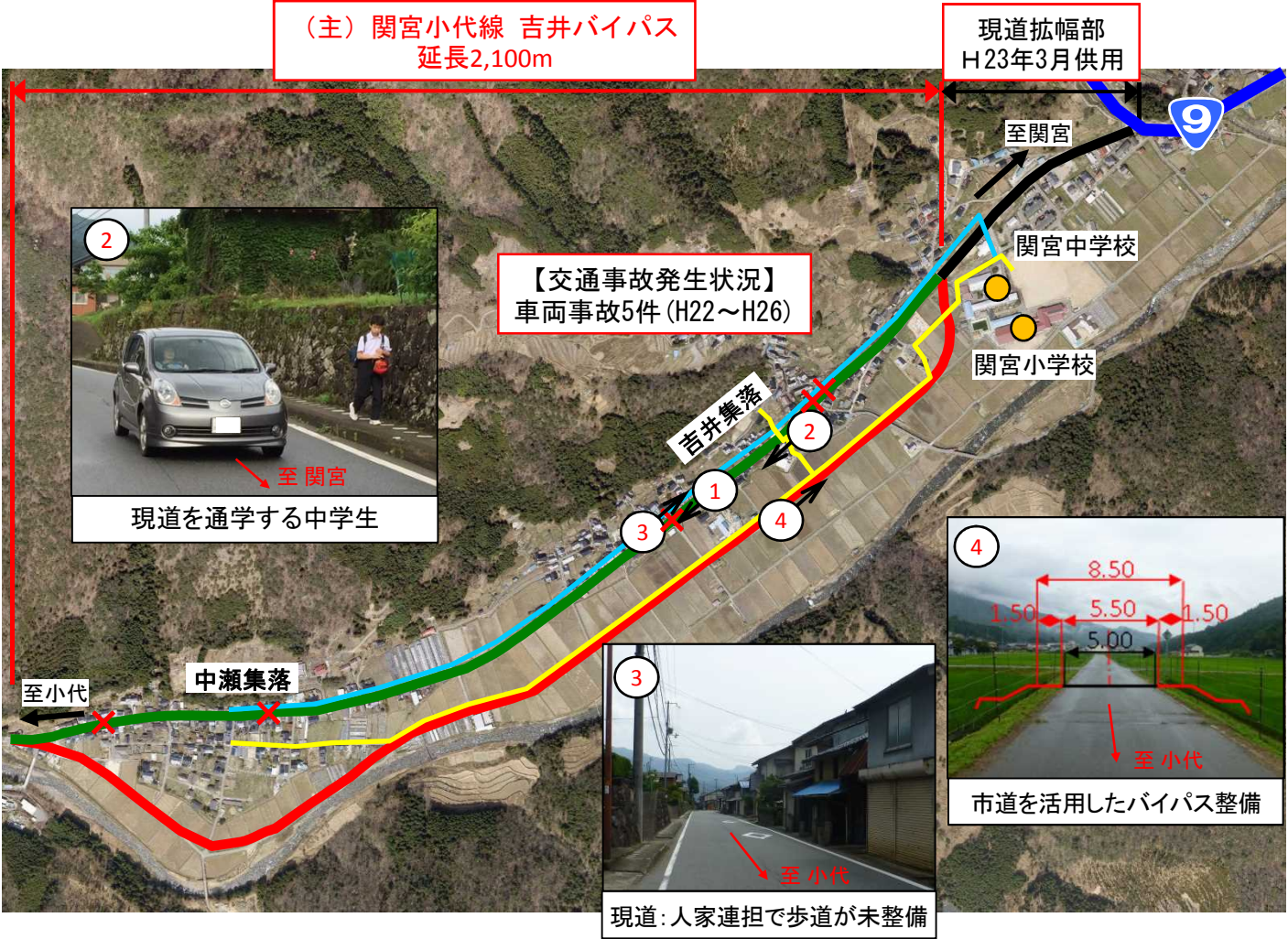
- 凡例
- : 国道
  - : 県道
  - : 事業区間
  - : 市道
  - : 公共施設、学校等
  - : 交通量

# 横断図



# 歩行者等の安全性確保

- ・現道は、中学生の通学経路となっているとともに、小学生も通学時に利用しているが、歩道は未整備で危険な状況である。
- ・特に、積雪時は路肩が狭く、歩くと危険な状況である。
- ・現道では、過去5年間で事故が5件発生している。(H22～H26)



①

6月

現道を通学する小学生

↔

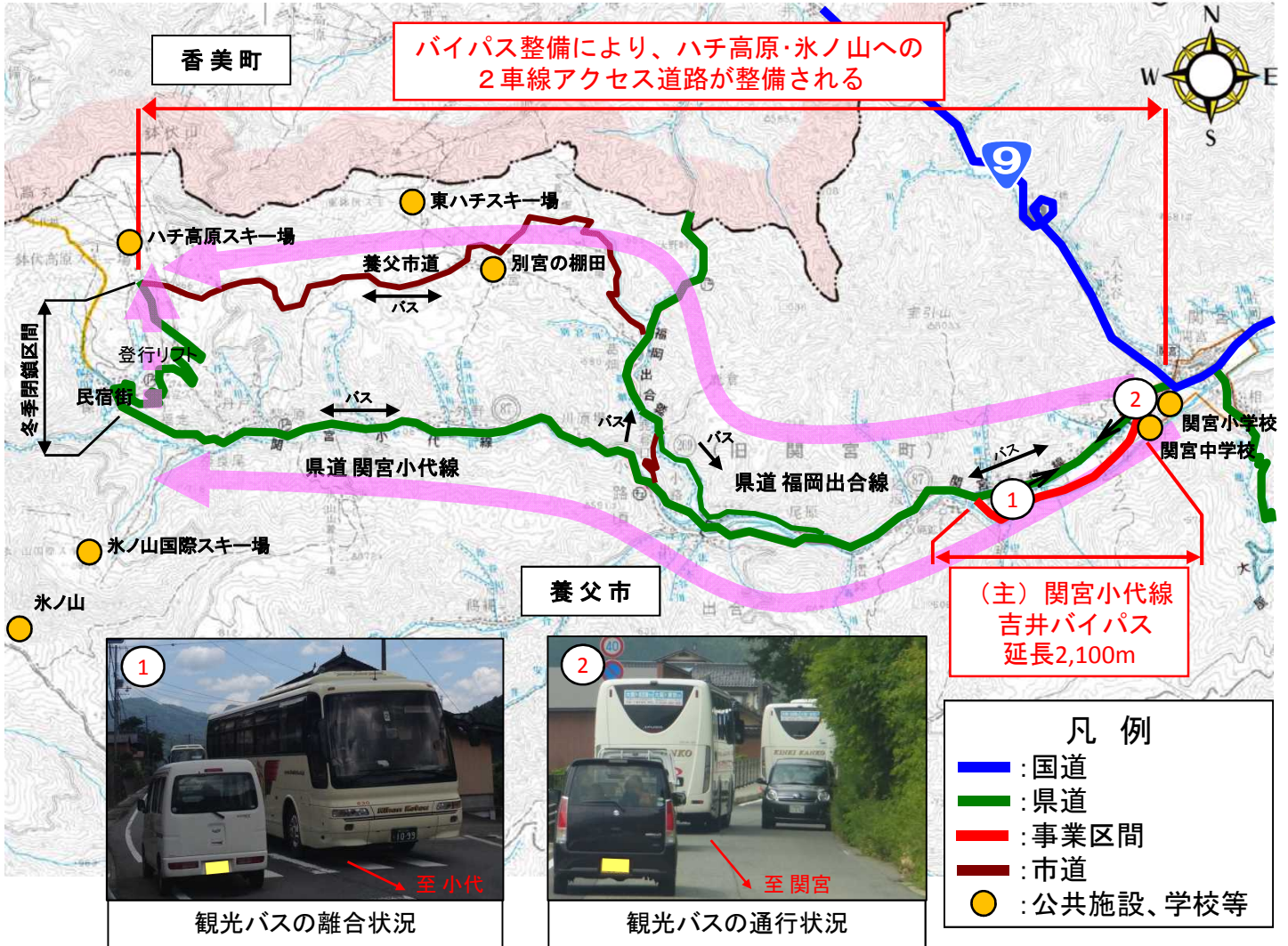
1月積雪期

積雪時は路肩が狭く歩くと危険

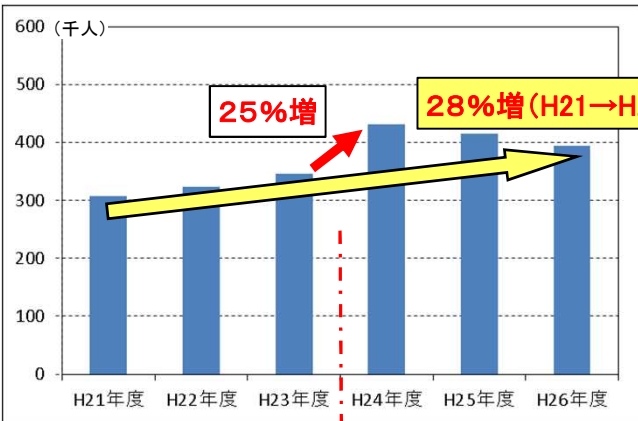
- 凡 例
- : 国道
  - : 県道
  - : 事業区間
  - : 改良済(既設歩道)
  - : 通学路(小学校)
  - : 通学路(中学校)
  - : 公共施設、学校等
  - ✕ : 事故発生箇所

# 交通の円滑化と観光拠点へのアクセス強化

- ・道路幅員が狭く(W=4.5m)、大型車の離合が困難。
- ・氷ノ山、鉢伏方面への観光交流人口は増加傾向であり、小学校の利用率も高い。
- ・自然学校等による大型バスの通行も多い。(夏・冬ピーク時には1日約70台通行)

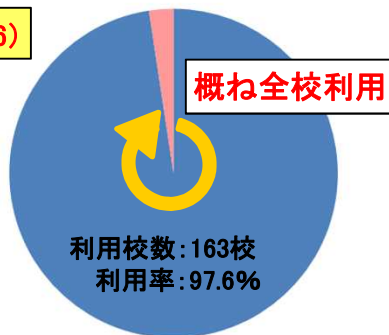


## 氷ノ山・鉢伏方面 観光交流人口推移

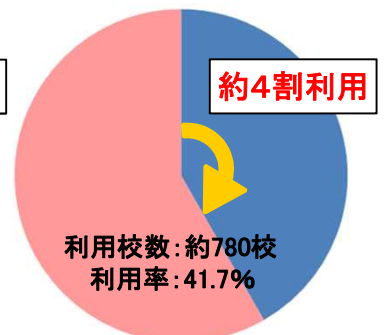


北近畿豊岡自動車道(八鹿日高道路)  
H24年11月供用

H26公立小学校(神戸市)  
自然学校等利用率  
(全学校数:167校)



H21小学校(兵庫県・大阪府)  
自然学校等利用率  
(全学校数:約1,870校)



1. 実施工程表  
当初計画

工 種	年 度				
	H28	H29	H30	H31	H32
調査・設計	■■■■■				
用地補償		■■■■■	■■■■■		
道路改良			■■■■■	■■■■■	■■■■■

2. 事業効果について

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
道路	① 走行時間短縮便益 ○ 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無し時の走行時間費用－整備有り時の走行時間費用 走行時間費用： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365 \text{日}$
	② 走行経費減少便益 ○ 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無し時の走行経費－整備有り時の走行経費 走行経費： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365 \text{日}$
	③ 交通事故減少便益 ○ 交通事故が減少することによる便益	整備無し時の事故損失額－整備有り時の事故損失額 事故損失額： $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位})$

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B / C
		便益額 (百万円)			総費用	事業費	維持管理費	
					(百万円)	(百万円)	(百万円)	
道路	道路改築事業 関宮小代線	① 走行時間短縮便益	1,126	計画交通： 2,100台/日 (H42)	589	479	110	2.1
		② 走行経費減少便益	38					
		③ 交通事故減少便益	42					
		計	1,206					

(2) 費用対効果に含まれない主な効果

- ① 緊急輸送道路（補完ルート）の整備による防災機能の強化
- ② 養父市最大の観光拠点であるハチ高原・氷ノ山へのアクセス強化による観光支援

## 道路街路事業の効果

対象事業：道路事業 関宮小代線

### (1) 費用対効果

効果項目 (費用対効果の便益内容)	
走行時間短縮	目的地までの時間短縮
走行経費減少	走行速度の向上や走行距離の短縮による燃料費の節約等
交通事故減少	交通事故の減少による人的損害額、物的損害額及び渋滞による損失額等

### (2) 費用対効果に含まれない効果

○印は当該事業効果の主な項目

評価の視点		効果項目	該当する事業内容等
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備)	○ 緊急輸送道路(補完ルート)の整備による防災機能の強化
		救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消)	○ 緊急輸送道路(補完ルート)の整備による防災機能の強化
		減災対策への取り組み (※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	—
	平時	救急医療体制の支援	—
		交通安全対策	○ 通過交通の転換による、歩行者・自転車利用者の安全な通行の確保
②地域の活性化	地域間交流の促進	—	
	中心市街地の活性化	—	
	地域産業の活性化	○ 養父市最大の観光拠点であるハチ高原・氷ノ山へのアクセス性向上	
	観光支援	○ 養父市最大の観光拠点であるハチ高原・氷ノ山へのアクセス性向上	
	地域プロジェクト等の支援	—	
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節点の機能の向上	—	
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	○ 通過交通をバイパスへ転換させることによる、交通騒音や排ガスなどの沿道影響の軽減	